英語の構文に関する一考察
––「最小構造」を活用した体系化の試み ––

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2025-05-01
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 數見 由紀子
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.24517/0002002553

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.

英語の構文に関する一考察
―「最小構造」を活用した体系化の試み ― *

數　見　由紀子

はじめに

本稿は科学研究費の助成を受けた研究課題（「最小構造」を活用した英語構文の体系化と教授法の開発）の中間報告である。

以下、第１節で研究対象を中心に研究課題の概要を述べ、第２節で初年度に実施した予備調査の結果を報告する。第３節では「最小構造」による体系化の利点を挙げ、第４節では今後の研究について展望する。

1. 研究課題の概要

本研究で着目するのは、英語の名詞句と非定形動詞（non-finite verb）[1]が連続する形で、両者に主語・述語の関係が成り立つ場合[2]である。この形が記事の見出しや掲示などに現れる場合と、通常の文で構文の一部として現れる場合をあわせて体系化し、学習者に向けた統一的な説明と効果的な提示法を提案することが、本研究の主な目的である。

本研究は三つの段階（予備調査、教材作成・運用、事後調査）からなり、本稿では初年度の予備調査を中心に報告する。

---

* 本稿は、科学研究費の助成を受けた「『最小構造』を活用した英語構文の体系化と教授法の開発」（基盤研究(C)(一般)、課題番号 22K00708、研究代表者：數見由紀子）の研究成果の一部である。

[1] 本稿で取り上げる非定形動詞は、現在分詞・過去分詞と to 不定詞で、句となる場合も含む。

[2] 本稿では名詞句と非定形動詞の叙述関係に注目し、主語と主題の違いについては論じない。

1.1. 研究の対象

1.1.1. 記事見出しなどに現れる名詞句と非定形動詞

はじめに、主述関係にある名詞句と非定形動詞（以下、NP-pnfV と表記[3]）がスペース的な制約のある環境（記事見出しや掲示・標識など）に生じる例を見ていく。以下、NP-pnfV に該当する箇所に下線を付し[4]、各例が用いられた環境を括弧内に示す。

(1) a. Swiss cheese hole mystery solved: It's all down to dirt （記事見出し）[5]
b. Australia drought: The 'unlikely' group calling for climate action （記事見出し）[6]
c. India to resume visa services for Canadians （記事見出し）[7]
d. WH: More classified pages found （ニュース字幕）[8]
e. Masks required （掲示）
f. Invoice enclosed （封筒印字）
g. Road closed （標識）
h. Bus stopping （車内サイネージ）

(1a-h)の下線部は定形動詞を含まないが、これらの NP-pnfV が表す内容は、スペース的な制約のない通常の環境における文に相当する[9]。たとえば、(1a)の下

---

[3] NP は noun phrase、pnfV は predicate non-finite verb の頭文字を用いて略記する。
[4] 非定形動詞が目的語などを伴う場合もあるが、下線は非定形動詞のみに付している。
[5] 2015 年 5 月 28 日の BBC News の記事から。URL は次のとおり。（https://www.bbc.com/news/world-europe-32920200）
[6] 2019 年 4 月 25 日の BBC News の記事から。URL は次のとおり。（https://www.bbc.com/news/world-australia-47890319）
[7] 2023 年 10 月 26 日の BBC News の記事から。URL は次のとおり。（https://www.bbc.com/news/world-us-canada-67201932）
[8] 2023 年 1 月 16 日に NHK BS で放送されたアメリカ ABC の番組 World News Tonight から。
[9] スペース的な制約のある環境では、冠詞や連結動詞（linking verb）などの非生起（省略）が見られる。こうした要素の非生起（省略）と、(1)の NP-pnfV が文相当の解釈をもつことは、表裏一体の関係にあると言える。

線部は、同記事の本文[10]から、定形動詞を含む(2)の文に相当すると考えられる。

(2) The Swiss cheese hole mystery has been solved.

換言すれば、(1a)の NP-pnfV は「解かれた謎」ではなく、「謎が解かれた」という事象を表し[11]、当該記事はその事象について報じている。

同様に、(1b)と(1c)の NP-pnfV は、当該記事の本文[12]をふまえると、それぞれ(3)と(4)の文に相当すると考えられる。

(3) The 'unlikely' group is calling for climate action.
(4) India is (going) to resume visa services for Canadians.

さらに、(1c)と、次の名詞句と不定詞の連続とを比較すると、要素間の関係の違いが明確になる。

(5) a. best places to visit
b. She needs someone to talk with.

(1c)の India は後続する不定詞の意味上の主語であるのに対し、(5a, b)の best places と someone はそれぞれに後続する不定詞の目的語であり、不定詞とともに

---

[10] 当該記事のリード文（導入文）を引用する。出典は注 5 に同じ。
Scientists say they have discovered why Swiss cheese has holes in it: apparently, it is all down to how dirty buckets are when the milk is collected.

[11] (1a)の mystery と solved は主述関係にあるが、solved は過去形ではなく、過去分詞である。英語の多くの動詞では過去形・過去分詞が同形であるが、記事見出しやニュース字幕では、定形 be 動詞がなくても過去分詞として受動態の解釈が可能である。（見出しや字幕では、過去の出来事を報じる際に現在形が用いられ、過去を表すための過去形は必須ではない。）

[12] それぞれの記事のリード文（一部）を引用する。それぞれの出典は、注 6 と注 7 に同じ。
(1b)の記事：Now one traditionally improbable group is increasingly calling for action: farmers.
(1c)の記事：India will resume visa services for Canadians after they ceased in a major diplomatic row in September, India's High Commission in Ottawa says.

に名詞句を構成する[13]。

1.1.2. NP-pnfV の解釈と英語学習

以上で見たように、(1)の NP-pnfV は通常の環境における文に相当する解釈をもつ。母語話者であれば、スペース的な制約のある環境（記事見出しや掲示など）の英語の特徴を経験や学習をとおして知っているが、英語圏での経験や学習機会が限られる学習者にとって、こうした NP-pnfV の解釈は容易ではない[14]。

筆者の観察では、英文法をひととおり学んだ大学生でも、NP-pnfV を名詞句として解釈する傾向がある。たとえば、(1e)の Masks required は、通常の環境における文（= (6)）に相当するが、定形 be 動詞を想定しない名詞句相当の解釈（= (7)）となりやすい。

(6) Masks are required.

(7) required masks (= masks that are required by somebody)

本稿では、以下、NP-pnfV の解釈に便宜的に二つの呼称を設け、(6)のような本来の解釈を「叙述的解釈」、(7)のような解釈を「修飾的解釈」と呼ぶことにする。

1.1.3. 文中に現れる NP-pnfV

次に、NP-pnfV が文中に現れる例を見ていく。

(8) a. <u>All things considered</u>, ... （独立分詞構文）

---

[13] 通常の環境で、名詞句が不定詞の意味上の主語となる(i)のような例もあるが、この場合、不定詞は関係節で置き替えられる修飾要素であり、(1c)の関係とは異なっている。

(i) a. Who is <u>the first person to land</u> on the moon?
b. She needs <u>someone to help</u> her.

[14] 筆者の担当授業の履修者の多くは、履修前に記事見出しや標識などの特徴を学習した経験がなかった。

b. ... ... with his eyes closed. （with を伴う分詞構文）
c. I heard her singing. （知覚動詞の構文）
d. He had his hair cut. （使役動詞の構文）
e. We could not get him to sign the agreement. （使役動詞の構文）

(8)に挙げた NP-pnfV は、英文法で学ぶ構文の一部を構成している。筆者の観察では、これらの NP-pnfV でも、学習者にとって主述関係が見えにくく、構文の同定が難しくなることがある[15]。

本研究では、NP-pnfV が見出しなどに現れる例と文中に生じる例を統合的に捉え、学習者に向けた効果的な説明や提示法を探る。

1.1.4. 連結動詞のない形

英語には、NP-pnfV 以外にも、主述関係にある要素が定形動詞を介さずに連続する形がある。はじめに、スペース的な制約のある環境における例を挙げ、該当する箇所に下線を付す。

(9) Merseyside voters ready to take sides in a turf war （記事見出し）[16]
(10) Covid-19: Republic's restrictions 'in place for six months' （記事見出し）[17]

それぞれの叙述要素は、(9)では形容詞句、(10)では前置詞句である[18]。本研究では、NP-pnfV との比較などの目的で、(9)のような名詞句と叙述形容詞（predicate adjective）が連続する形を取り上げる。以下、この形を NP-pADJ[19]と表記する。

NP-pADJ は、スペース的な制約のない環境でも用いられる。以下、該当する

---

[15] 代名詞の場合に目的格となることも、主述関係が見えにくい一つの要因と考えられる。
[16] 2019 年 4 月 14 日の BBC News の記事から。URL は次のとおり。
（https://www.bbc.com/news/uk-england-merseyside-47885783）
[17] 2021 年 1 月 24 日の BBC News の記事から。URL は次のとおり。
（https://www.bbc.com/news/world-europe-55781317）
[18] 文中に現れる例では、このほか、名詞句も叙述要素として生じうる。
[19] NP は noun phrase の頭文字、pADJ は predicate adjective の下線部を用いて略記する。

箇所に下線を付す。

(11) Classrooms empty; library deserted. This university used to be full of female students. No more. （口頭レポート）[20]

(11)の例は、ニュースの現地レポートの冒頭に生じたものである[21]。

また、NP-pADJ は、NP-pnfV と同様に文中にも生じる[22]。次の例は口頭で用いられたものである。

(12) Please have your passport ready.

(12)の NP-pADJ は have の目的語と補語に相当し、(8d)の使役動詞の構文とも共通性が見られる。

1.2. 研究の目的:名詞句と非定形叙述要素からなる形の統合

以上で挙げた形を整理すると、次のようになる。

(13) NP-pnfV（主述関係にある名詞句と非定形動詞の連続）
  a. 見出しなどで定形動詞のないもの（例：(1)）
  b. 文中で構文の一部を構成するもの（例：(8)）

---

[20] 2023 年 1 月 25 日に NHK BS1/NHK G で放送された「キャッチ！ 世界のトップニュース」で取り上げられたイギリス BBC のニュース（BBC では前日 1 月 24 日放送のニュース）から。ニュース内の現地レポーターの音声を筆者が書き起こしたもの。

[21] この例の classrooms と library とそれぞれの叙述形容詞（empty、deserted）の主述関係は、ポーズや音調で示された。

[22] 次の例は、叙述要素が前置詞句の場合で、口頭で用いられたものである。いずれも冒頭に keep を補った命令文に相当すると考えられる。

(ii) a. Eyes on the road.
  b. Eyes on the screen.

(14) NP-pADJ（主述関係にある名詞句と叙述形容詞の連続）

a. 見出しなどで定形動詞のないもの（例：(9)、(11)）

b. 文中で構文の一部を構成するもの（例：(12)）

(13)の NP-pnfV と(14)の NP-pADJ はいずれも、名詞句と、定形動詞以外の叙述要素で構成される。筆者はこれまでの観察から、NP-pADJ の主述関係が学習者に認識されやすいのに対し、NP-pnfV ではその認識が難しいと考えている。一般に、高等学校までの英語学習では(13a)の形を学ぶ機会が限られ、(13b)については、各構文を個別に学ぶため、共通性が見えにくい[23]。

本研究では、 (13a)と(13b)の NP-pnfV をあわせて体系化し、学習者に向けた統一的な説明や提示法を提案する。体系化にあたっては、言語学における「小節 (small clause)」の概念（Williams (1975) ほか）を参考とした「最小構造」という概念を用いる。「小節」の定義や対象となる範囲は研究者によって異なり、本研究の主眼はその定義づけにはないため、独自の概念を導入することとした。

「最小構造」とは、主述関係にある要素を含む最小の単位（ユニット）という趣旨である。本研究では、見出しなどの(13a)と(14a)と、文中で生じる(13b)と(14b)をあわせて、「最小構造」として統合することを提案する[24]。この統合によって、NP-pnfV と NP-pADJ の共通性が明確になり、学習面や心理面においてさまざまな利点が得られる。それらの利点については、第３節で述べる。

2. 予備調査（2022 年度）の報告

本研究を進めるにあたり、研究の端緒となった学習者の傾向（授業をとおした筆者の観察）に加え、NP-pnfV や NP-pADJ に焦点を絞った調査を行い、学習者の傾向や理解度を把握することとした。

---

[23] それぞれの構文の文中の生起位置や名詞句の格などを考慮すると、統一的な説明は必ずしも容易とはいえない。また、同じ特徴をもつ構文を個別に提示することや、段階的に提示することが効果的な場合もある。

[24] 本稿では詳述しないが、対象とする範囲には、叙述要素が前置詞句の場合（(10)の例）や、名詞句の場合も含める。

2.1. 調査の概要

予備調査は、筆者が 2022 年度に担当した英語科目（同一シラバスの四つのクラス）で、時間外学習の一部として実施した[25]。４クラスの履修者（大学１年生、計 105 名）を対象に、所属機関の LMS システムを活用したオンデマンド形式の調査を行った。

調査時期は、学期期間（2022 年 12 月～2023 年 2 月、全８週）の６週目と７週目で、重複しない１週間をオンデマンド学習期間に設定した。当該科目では時間外学習に LMS システムを用いており、履修者は調査時に LMS 教材の利用・学習に十分慣れていた。回答数（４クラス合計）は、６週目が 68 名、７週目が 76 名であった。

調査には筆者が作成したアンケート式教材（正解表示・自動採点なし）を用いた。教材は、英語の NP-pnfV や NP-pADJ について簡単な設問に回答してもらうもので、設問・回答方法は６週目と７週目で異なる（詳細は後述）。六つの例を含むセットを二つ用意し、６週目と７週目に使用した。提示した例は、オンライン記事の見出しやテレビニュースの字幕、授業の副教材（TOEIC L&R の公式問題集）から素材を採った。原文のままの使用を原則としたが、回答者の負担軽減のため、最小限の改変（語数の縮減、固有名詞の書き替えなど）を行った。

なお、調査目的は事前に示さず、回答期間の終了後（８週目の授業時間内）にフィードバックと解説を行った。

2.2. 調査（1セット目）の報告

2.2.1. 調査方法・提示例

１セット目では、英語の例について、直感的に思い浮かぶ解釈を日本語で回答してもらった。提示した例を以下に挙げる（出典は本稿末尾に記載）。

---

[25] 調査への参加の有無は当該授業の成績評価の対象外とし、その旨を履修者に周知している。また、履修者には、授業実践報告や研究での回答データの利用について承諾を得ている。

［提示した英語］

(I-1)　More Files Found

(I-2)　Wedding Planning Made Easy

(I-3)　Valuables Found on Beach

(I-4)　Supervisor Training Now Available

(I-5)　More Classified Pages Found

(I-6)　Discovery Made Same Day As Special Announcement

六つの例のうち、(I-4)のみが NP-pADJ で、ほかは NP-pnfV である。比較のため、同じ非定形動詞（found と made）を複数の例で用いた。

教材の画面では、各ページに一つずつ例を表示し、回答終了後に次のページが表示される設定とした。回答方法については、すべてのページの冒頭に次の指示を付し、回答者の直感的な解釈を促すとともに、未知語や意味のわからない語による影響が出にくいようにした。

［回答方法の指示］

次の英語を読んで、日本語で意味を記入してください。

・できるだけ短時間で、思い浮かぶ意味をそのまま書いてください。

・辞書は使わず、意味がわからない語は、英語のまま記入してください。

2.2.2. 結果と考察

１セット目の結果について、はじめに、found を含む三つの例（I-1, I-3, I-5）をあわせて見ていく。

各例について、全回答数から原文のままの入力と無回答を除いた「有効回答数」を下表の欄外右上に記す。回答は自由記述式のため、類似する内容をタイプ別に集計し、「有効回答数」に対する比率を算出した[26]。また、表中では、各

[26] 小数点以下第２位を四捨五入しているため、叙述的解釈（計）とタイプ別の比率の和は一致しないことがある。

例の主語・主題名詞句（More files／Valuables／More classified pages）をまとめて「X」と表記する。

(I-1)　More Files Found　　有効回答数：60

	Class 1（人）	Class 2（人）	Class 3（人）	Class 4（人）	計（人）	比率（%）
X が見つかった	11	9	8	6	34	56.7
X を見つけた	1	1	3	2	7	11.7
X の発見	1	0	1	0	2	3.3
叙述的解釈（計）	*13*	*10*	*12*	*8*	*43*	*71.7*
修飾的解釈	3	3	0	2	8	13.3
その他	2	2	0	5	9	15.0
原文入力・無回答	1	2	2	3	8	—

(I-3)　Valuables Found on Beach　　有効回答数：59

	Class 1（人）	Class 2（人）	Class 3（人）	Class 4（人）	計（人）	比率（%）
X が見つかった	5	1	5	1	12	20.3
X を見つけた	3	4	3	2	12	20.3
X の発見	0	0	0	1	1	1.7
叙述的解釈（計）	*8*	*5*	*8*	*4*	*25*	*42.4*
価値ある発見	1	0	1	3	5	8.5
修飾的解釈	6	3	1	3	13	22.0
その他	3	6	2	5	16	27.1
原文入力・無回答	1	3	2	3	9	—

(I-5)　More Classified Pages Found　　有効回答数:54

	Class 1（人）	Class 2（人）	Class 3（人）	Class 4（人）	計（人）	比率（%）
X が見つかった	12	6	8	8	34	63.0
X を見つけた	2	3	3	2	10	18.5
X の発見	0	0	1	0	1	1.9
叙述的解釈(計)	*14*	*9*	*12*	*10*	*45*	*83.3*
修飾的解釈	1	0	0	1	2	3.7
その他	1	2	0	4	7	13.0
原文入力・無回答	3	6	2	3	14	—

(I-1)と(I-5)では、全体的に同じ傾向の結果となった。叙述的解釈（X が見つかった／X を見つけた／X の発見[27]）の割合は、それぞれ 71.7%と 83.3%と高く、予想と一致した。

今回の調査では、NP-pnfV の叙述的解釈が難しいとの事前予想から、found を含む提示例について、過去分詞としての解釈を「誘導」する形で準備した。 (I-1)、(I-3)、(I-5) ではいずれも、found の動作主とならない無生物を先行名詞句に選定し、found の後に目的語となりうる要素が生じない形としている。(I-1)と(I-5) では叙述的解釈の割合が高く、想定した結果となった。

修飾的解釈（「発見された X」や「見つかった X」など）は、(I-1)では 13.3%、(I-5)では 3.7%と低かった。修飾的解釈がとくに少なかった(I-5)では、名詞の前の過去分詞（classified）が形容詞的な働きをするため、名詞の後の found が述語として解釈されやすかった可能性が挙げられる。

一方、(I-3)では、(I-1)や(I-5)とは異なる傾向が見られた。(I-3)の叙述的解釈は 42.4%で、(I-1)や(I-5)と比べると低く、修飾的解釈（発見された X／見つかった X など）は 22.0%で、(I-1)や(I-5)より高かった。このほか、valuables と found を結びつけたと考えられる「価値ある発見」が 8.5%、その他の解釈が 27.1%と、

[27] 「X の発見」は形としては体言だが、「発見された X」とは異なり、叙述的解釈である。

回答にばらつきが見られた[28]。

次に、(I-2, I-4, I-6) について見ていく。下の表中では、各例の主語・主題名詞句（Wedding planning／Supervisor training／Discovery）をまとめて「X」と表記する。

(I-2)　Wedding Planning Made Easy　　有効回答数：58

	Class 1（人）	Class 2（人）	Class 3（人）	Class 4（人）	計（人）	比率（%）
X は簡単になる/なった	1	2	4	2	9	15.5
X を簡単にする/した	3	1	1	0	5	8.6
叙述的解釈（計）	*4*	*3*	*5*	*2*	*14*	*24.1*
X は簡単だ	4	6	3	7	20	34.5
修飾的解釈	3	1	1	0	5	8.6
その他	5	4	3	7	19	32.8
原文入力・無回答	3	3	2	2	10	—

(I-4)　Supervisor Training Now Available　　有効回答数：55

	Class 1（人）	Class 2（人）	Class 3（人）	Class 4（人）	計（人）	比率（%）
叙述的解釈（X が利用可能）	7	5	8	8	28	50.9
修飾的解釈（利用可能な X）	3	1	0	2	6	10.9
訓練中の監督/監督が訓練中	3	0	3	1	7	12.7
その他	2	7	1	4	14	25.5
原文入力・無回答	4	4	2	3	13	—

[28] 一部は冒頭の valuables の理解度に起因すると思われる。また、(I-3)には found に後続要素（on beach）がある点で(I-1)や(I-5)と異なるが、この影響の有無は現時点では不明である。

(I-6)　Discovery Made Same Day As Special Announcement　　有効回答数:53

	Class 1（人）	Class 2（人）	Class 3（人）	Class 4（人）	計（人）	比率（%）
特別な発表と同日に発見(した/された)	4	4	3	3	14	26.4
特別な発表として発見(した/された)	3	1	1	2	7	13.2
発見が同じ日を特別な発表にした	5	0	1	1	7	13.2
その他	5	7	6	7	25	47.2
原文入力・無回答	2	5	3	5	15	—

(I-2)では、全体的に回答のタイプが分散する結果となった。叙述的解釈の比率は 24.1%と低かった。叙述的解釈としては、made に相当する要素が含まれる「X は簡単になる／なった」と「X を簡単にする／した」をあわせて集計している。修飾的解釈も 8.6%と少なかった。このほか、構造が単純化され made を含まない「X は簡単だ」のタイプの回答が 34.5%と高くなっている。この解釈は適切ではないが、easy が wedding planning の修飾要素でなく、叙述要素として認識されている。以上のタイプ以外の「その他」の解釈も全体の３割強を占めている。この例では、要素間の関係の把握・表現が難しかったことが暫定的に推察される。

(I-4)は NP-pADJ の例で、叙述的解釈が多いと予想したが、やや複雑な結果となった。叙述的解釈（X が利用可能）は 50.9%で、修飾的解釈（利用可能な X）は 10.9%であった。叙述的解釈の比率は、非定形動詞 found を含む三つの例のうち、(I-3)の 42.4%よりは高いが、(I-1)の 71.7%や(I-5)の 83.3%よりは低かった。回答を詳しく見ると、要因の一つに、supervisor と training を主述関係とみなす「訓練中の監督／監督が訓練中」が 12.7%あったことが挙げられる。主語・主題名詞句を構成する supervisor と training は本来は分割されないが、この構造が見えにくかったことが全体の結果に影響を及ぼす結果となった。調査で提示した例は、できるだけ原文のまま使用したが、今後、構造が明確であることや、なじみのある語句を用いることにも留意したい。

(I-6)では、as の解釈が、same と結びつく「特別な発表と同日」と same と切り離された「特別な発表として」の二つに分かれた。前者の場合の叙述的解釈は26.4%であった。後者の as の解釈は適切ではないが、discovery made の解釈に影響のない回答においては、叙述的解釈が 13.2%となっている。

予備調査では、同じ made を含む(I-2)と(I-6)の傾向の比較・分析を予定していたが、回答にばらつきが多く、厳密な分析が難しい結果となった。提示例における語や構造の選択を今後の課題としたい。

2.3. 調査（2セット目）の報告

2.3.1. 調査方法・提示例

２セット目では、六つの例のそれぞれについて、内容を英語で書き替えた二通りの選択肢を示し、直感的に意味が近いと感じる方を選んでもらった。選択肢には、それぞれの例の修飾的解釈を示す名詞句と、叙述的解釈を示す文を用いた。選択肢の提示順による影響を避けるため、奇数番の例では選択肢を名詞句・文の順、偶数番の例では文・名詞句とし、交互に入れ替えた。教材の画面では、各ページに一つずつ例を表示し、回答終了後に次のページが表示される設定とした。

六つの例と選択肢は次のとおりである（出典は本稿末尾に記載）。回答方法については、すべてのページの冒頭に日本語で次の指示を付した。

［回答方法の指示］

次の英語について、下の A と B のうち、意味がより近いと感じるものを選んでください。（下線の語は固有名詞です）

［提示した英語］

(II-1)　Snow Falling on Cedars

[A]　Snow which is falling on cedars

[B]　Snow is/keeps falling on cedars.

(II-2)　Masks Required

[A] Masks are necessary.

[B] Masks which people need

(II-3) C-Tex to Make Sportswear for Dynama

[A] C-Tex for making sportswear for Dynama

[B] C-Tex is going to make sportswear for Dynama.

(II-4) Burger City Bistro to Become BC Bistro

[A] Burger City Bistro will become BC Bistro.

[B] Burger City Bistro for people to become BC Bistro

(II-5) Gold Ring Found on Beach

[A] A gold ring that somebody found on beach

[B] A gold ring was found on beach (by somebody).

(II-6) Leadership Training Now Available

[A] A leadership training course is now available.

[B] A leadership training course which is now available

2.3.2. 結果と考察

２セット目の回答数は計 76 名で、各クラスの内訳は次のとおりである。調査時には、名詞句と文の選択肢の順序を入れ替えたが、下表では見やすさのため、文（叙述的解釈）と名詞句（修飾的解釈）の順に統一する。

	Class 1（人）	Class 2（人）	Class 3（人）	Class 4（人）	計（人）	比率（%）
(II-1) Snow Falling on Cedars						
文（叙述的解釈）	7	6	4	7	24	31.6
名詞句（修飾的解釈）	16	13	10	13	52	68.4
(II-2) Masks Required						
文（叙述的解釈）	11	13	10	9	43	56.6
名詞句（修飾的解釈）	12	6	4	11	33	43.4

	Class 1（人）	Class 2（人）	Class 3（人）	Class 4（人）	計（人）	比率（%）
(II-3) C-Tex to Make Sportswear for Dynama						
文（叙述的解釈）	6	9	6	6	27	35.5
名詞句（修飾的解釈）	17	10	8	14	49	64.5
(II-4) Burger City Bistro to Become BC Bistro						
文（叙述的解釈）	15	13	9	16	53	69.7
名詞句（修飾的解釈）	8	6	5	4	23	30.3
(II-5) Gold Ring Found on Beach						
文（叙述的解釈）	15	16	12	16	59	77.6
名詞句（修飾的解釈）	8	3	2	4	17	22.4
(II-6) Leadership Training Now Available						
文（叙述的解釈）	15	10	11	14	50	65.8
名詞句（修飾的解釈）	8	9	3	6	26	34.2

(II-1)の Snow Falling on Cedars の回答では、名詞句（修飾的解釈）が４クラス全体で７割に近く、各クラスとも、修飾的解釈が叙述的解釈の約２倍となっている。一方、(II-2)の Mask Required の回答では、文（叙述的解釈）が４クラス全体で半数を超えている。二つのクラス（Class 2 と Class 3）では、叙述的解釈が修飾的解釈の約２倍で、(II-1)と解釈の比率が逆転している。

今回の調査では提示例・回答数とも限られるため、傾向の分析が難しいが、(II-2)では required の後に目的語となる要素がないために、required の過去分詞としての解釈が強まった可能性がある[29]。

次に、(II-3)の C-Tex to Make Sportswear for Dynama と(II-4)の Burger City Bistro

[29] 今回の調査では、回答者に直接理由を聞く機会がなかったが、今後は機会を設けたい。

to Become BC Bistro について見る。どちらも to 不定詞を含むが、叙述的解釈は、(II-3)の to make では低く、(II-4)の to become では高くなっている。この傾向は４クラスとも同様で、全クラス合計の叙述的解釈の比率は、(II-3)は 35.5％であるのに対し、(II-4) は 69.7％で、約２倍となっている。(II-4) の become は語義や用法により、定形動詞（be 動詞など）がなくても、先行名詞を主語として解釈しやすかったと考えられる。

(II-5)の Gold Ring Found on Beach は、１セット目の(I-3)の例（Valuables Found on Beach）の冒頭を入れ替えたものである。(I-3)では、同じ found を含む(I-1)や(I-5)と回答の傾向が異なったため、記事の本文で用いられている gold ring に置き替えた。叙述的解釈の比率は、(I-3)では 42.4％であったのに対し、(II-5)では 77.6％と２倍近くとなっている。修飾的解釈の比率がもっとも高いクラス（Class 1）でも、叙述的解釈が修飾的解釈の２倍に近い。１セット目と２セット目の回答方法が異なるため、単純な比較はできないが、valuables では見えにくかった found との主述関係が、gold ring に置き替わったことで見えやすくなり、叙述的解釈の傾向が強まったと推察される。

(II-6)の Leadership Training Now Available は、１セット目の(I-4)の例（Supervisor Training Now Available）の冒頭を変えたものである。(I-4)の supervisor は原文のままの入力が多数見られ、supervisor と training を主述関係とみなす解釈も一定数あったことから、よりなじみがあると思われる leadership に置き替えた。(II-6)では叙述的解釈が 65.8％で、(I-4)の叙述的解釈（50.9％）と比べて増加している。冒頭の leadership への置き替えにより training との関係が見えやすくなり、その結果、叙述的解釈が強まったと考えられる。

2.4. 調査結果の考察と活用の可能性

予備調査の結果について、今後の教材作成や事後調査における活用の可能性を述べる。

(I-1)や(I-5)では叙述的解釈の割合がとくに高かった。これは、先に触れた点（先行名詞句が非生物で、found の後に目的語となりうる要素がない）が主な要因と考えられるが、日本語に「見つかる」（受動的な意味をもつ自動詞）が存在する

影響も考えられる。教材に用いる例の選定にあたり、関連する日本語の語彙についても考慮したい。

(II-4)では、become という語自体が先行名詞句との主述関係の解釈を容易にした可能性がある。教材作成時の語彙選定の参考とし、特定の語彙によって叙述的解釈を誘導する効果が得られるか検証したい。

また、非定形動詞が現在分詞の(II-1)では、修飾的解釈が叙述的解釈を上回った。今回の調査では例の数が限られるため、学習者が現在分詞と先行名詞句の結びつきをどのように捉えているか、例を増やして調査したい。

今回の予備調査では、１セット目と２セット目に同じ動詞や類似の例を用いたことによる「学習効果」と思われる結果が観察された[30]。この点をふまえて教材を作成し、類似の語句による叙述的解釈の強化の可能性について、事後調査で検証したい。

3.「最小構造」としての統合の利点

本研究では、NP-pnfV や NP-pADJ など、定形動詞を伴わない叙述の形を「最小構造」（主述関係にある要素を含む最小ユニット）として統合・体系化することを提案している。さらに、この体系化について、今後の教材作成・運用や事後調査から有効性が示されれば、「最小構造」を英語の「基本構造」として、学習の早い段階に位置付けることを提案したい。この節では、「最小構造」による体系化の利点と、「最小構造」を通常の文より早く導入する利点について述べる。

3.1. 学習面の利点

英語の既習者であれば、「最小構造」の概念を用いて、個別に学習した NP-pnfV の形を学習者自身が整理・体系化し、共通性を明確に把握できると期待される。

また、「最小構造」を早い段階で導入する利点として、学習者の負担の軽減が

[30] 今回の調査では、各セットの結果を厳密に独立させて分析する必要がなかったため、共通の語句を重複して使用している。

挙げられる。通常の文を学習する前に、定形動詞を含まない NP-pnfV や NP-pADJ を学ぶことにより、主語と定形動詞の数の一致を気にせず、英語で叙述する練習ができる。「最小構造」の定着後に、これをコア（core）として定形動詞や冠詞などを補い、通常の文へ展開することで、負担の少ない段階的な学習が可能となる。

3.2. 心理的な利点

母語話者でも、幼児の発話には連結動詞のない形が見られるが、この場合、言語獲得の途中段階の形[31]と捉えられる。一方、学習者による連結動詞のない形は、「文」の要件を満たさない「不完全な文」とみなされやすい。外国語学習では初習時の年齢が比較的高く、文法的正誤などの評価による影響を受けやすい[32]。「最小構造」を「基本構造」と位置づけ、通常の文より先に導入すれば、学習時のマイナス評価を減らすことにつながる。

さらに、「最小構造」を「基本構造」と捉えることによって、難易度のイメージを転換できる。一般に、学習項目は「単純なもの」から「複雑なもの」へ段階的に提示されることが多い。文構造については、はじめに SV・SVO・SVC、次に SVOO と SVOC（C＝名詞）、その後に SVOC（C＝形容詞）を学習するのが一般的である。さらに、これらの後に SVOC（C＝非定形動詞）が提示される。こうした段階的な学習は、初習時の自然な提示順とも思われるが、一方で、SVOC の OC に着目し、「最小構造」として早い段階で提示する可能性にも、検討の余地があると筆者は考える。

学習者は、相対的に遅い段階で提示される事項をより難しいものと捉えやすい。NP-pnfV や NP-pADJ を「最小構造」として早い段階で提示することは、心理的なハードルを下げ、難しいイメージを払拭する、学習者に向けたメッセージとなりうる。

---

[31] こうした形の一部は、電報的発話（telegraphic speech）に該当する。

[32] 筆者自身、初習段階で経験したマイナスの評価から完全には解放されておらず、いまだに不安や不自由を感じることがある。

4. 今後の進め方と展望

本稿の結びに代えて、今後の研究の進め方と展望について述べる。

4.1. 今後の進め方

本稿では、研究計画の三つの段階（予備調査、教材作成・運用、事後調査）のうち、初年度の予備調査について報告した。当初、予備調査を１回のみ計画していたが、今回の調査の結果をふまえて、追加調査を実施する予定である。２回目の調査は、１回目の調査の形式や提示例などを検証した上で対象者を変えて行い、学習者の傾向や理解度をより正確に把握したい。

教材作成・運用の段階では、NP-pnfV の理解・定着を促す教材を作成し、学習者に実際に使用してもらう計画である。教材作成では、筆者の実践経験をふまえ、英文記事の見出しとリード文（導入文）の対応を活用する。記事の見出しとリード文には明確な対応が見られることが多く、教材でこの対応に注目させることで、NP-pnfV の理解・定着を図りたい[33]。

事後調査では、記事見出しを用いた学習が、分詞構文などの文中の NP-pnfV の理解に応用・反映されるかを検証し、「最小構造」としての体系化や提示順の有効性について探る。学習効果を詳細に分析するために、学習者への聞き取り調査も計画している。

4.2. 今後の展望

NP-pnfV や NP-pADJ を「最小構造」として統一的に捉える有効性が示された場合、「最小構造」を用いた提示法を新機軸として、英語構文全般の新たな教授法や教材の開発につなげたいと考えている。

まず、英語の既習者の学習をサポートする環境を整えたい。英文法をひととおり学んだ学習者であれば、新たな視点や効果的な教材を得ることで、学習者

---

[33] 筆者の過去の担当授業における実践（見出しの NP-pnfV の解説、見出しとリード文の対応を用いた小テスト問題の出題、期末試験における同形式の問題とその解答の分析）から、一定の効果があったと考えている。

自身が既習の知識を整理・再構成し、理解を深めることができるが、通常の授業時間内ではレメディアル的なサポートを行うことが難しい。そこで、本研究ではオンデマンド形式の教材を試作し、将来的に英語既習者の自己学習や授業の補完として活用することを視野に入れている。

さらに発展的な展望として、初習者への応用の可能性が挙げられる。本研究は主に既習者を想定しているが、今後、一定の効果が認められた場合は、標準的な提示順や説明方法の代替となる一つの選択肢として、「最小構造」を活用した説明や提示の可能性（構文の提示順の見直し・組み替えなど）を検討したい。

NP-pnfV や NP-pADJ の理解度を高めることは、読解力の向上だけでなく、さらに二つの面で学習者をサポートできる。一つは、アカデミックスキルとして重要なノートテイキング（note-taking）である。ノートテイキングで求められる NP-pnfV や NP-pADJ の産出も、学習者にとって容易とはいえない。通常の文から NP-pnfV や NP-pADJ を切り出すのではなく、これらを「最小構造」として学ぶことは、産出面でも効果があると思われる。

もう一つは、記事やニュース、標識・掲示などの即時理解である。これらは英語圏での不可欠な情報源であり、本研究で提案する「最小構造」は、実用英語の運用能力の面でも貢献できると考える。

（金沢大学国際基幹教育院外国語教育系）

予備調査の提示例の出典

１セット目（I−1 から I−6）

(I-1)、(I-5)、(I-6)：いずれも同じニュース番組のニュース[34]の見出し字幕の一部を用いた。(I-5)では、主要見出しの一つ（WH: More Classified Pages Found）のコロンの後を使用した。また、主要見出しの下に入れ替わって表示され

[34] 2023 年 1 月 16 日に NHK BS で放送されたアメリカ ABC の World News Tonight の Breaking News から。実際の画面では、すべて大文字であったが、ここでは見やすさのために語頭のみを大文字で表記する。

た、副題に相当する見出しの一つ（Discovery Made Same Day As Special Counsel Announcement）を一部省略の上、(I-6)に用いた。(I-1)には、関連するニュースの主要見出し（Classified Documents Investigation）の下の副題（More Files Found; Committee Requests Biden Visitor Logs）のセミコロンの前の部分を用いた。

(I-2)、(I-3)、(I-4)：『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集』の問題を構成する文書の一部で、いずれも記事の見出しである。出典は次のとおり。

(I-2)：『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集６』（p.54）

(I-3)：『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集１』（p.59）

(I-4)：『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集１』（p.109）

２セット目（II-1 から II-6）

(II-1)：映画タイトル（1999 年、アメリカ、邦題『ヒマラヤ杉に降る雪』）

(II-2)：ニュース映像で見られた英語圏の掲示（貼り紙）の文言

(II-3)、(II-4) 、(II-5)、(II-6)：『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集』の問題を構成する文書の一部で、いずれも記事の見出しである。出典は次のとおり。

(II-3)：『公式 TOEIC Listening ＆ Reading 問題集５』（p. 62）から。記事見出しの一部を改変（Cordar Textiles to Make Sportswear for Dynamaxon の固有名詞について、Cordar Textiles を C-Tex、Dynamaxon を Dynama に簡略化）。

(II-4)：『公式 TOEIC Listening ＆ Reading 問題集７』（p. 95）

(II-5)：『公式 TOEIC Listening ＆ Reading 問題集１』（p.59）から。記事見出しの一部を改変（Valuables Found on Beach の冒頭の名詞句を記事本文の内容を基に Gold Ring に置き替え）。

(II-6)：『公式 TOEIC Listening ＆ Reading 問題集１』（p. 109）から。ウェブサイト記事の見出しを一部改変（Supervisor Training Now Available の冒頭の名詞を Leadership に置き替え）。

参考・引用文献

Aarts, Bas. 1992. *Small Clauses in English: The Nonverbal Types*. Berlin and New York: Mouton de Gruyter.

Chomsky, Noam. 1981. *Lectures on Government and Binding*. Dordrecht: Foris Publications.

Cutts, Martin. 2020. *Oxford Guide to Plain English.* Fifth edition. Oxford: Oxford University Press.

Declerck, Renaat. 1991. *A Comprehensive Descriptive Grammar of English*. Tokyo: Kaitakusha.

Goldberg, Adele E. 1995. *Constructions: A Construction Grammar Approach to Argument Structure.* Chicago: University of Chicago Press.

文部科学省．2018.『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語編』，東京：開隆堂出版.

文部科学省．2019.『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 外国語編 英語編』，東京：開隆堂出版.

中右実・西村義樹．1998.『構文と事象構造』，中右実編「日英語比較選書」５，東京：研究社出版.

Williams, Edwin S. 1975. “Small Clauses in English,” in Kimball (ed.). 1975. *Syntax and Semantics*, Vol. 4. New York: Academic Press.

引用文献（予備調査の提示例）

Educational Testing Service. 2016.『公式 TOEIC Listening ＆ Reading 問題集１』，東京：国際ビジネスコミュニケーション協会.

Educational Testing Service. 2019.『公式 TOEIC Listening ＆ Reading 問題集５』，東京：国際ビジネスコミュニケーション協会.

Educational Testing Service. 2020.『公式 TOEIC Listening ＆ Reading 問題集６』，東京：国際ビジネスコミュニケーション協会.

Educational Testing Service. 2020.『公式 TOEIC Listening ＆ Reading 問題集７』，東京：国際ビジネスコミュニケーション協会.